

6. 東北大学医学部（国立） Tohoku University School of Medicine

<http://www.med.tohoku.ac.jp/>

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号

電話022-717-8005

FAX022-717-8021

e-mail : med-som@bureau.tohoku.ac.jp

教養課程

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

電話022-795-7578

FAX022-795-7555

e-mail : kyom-k@bureau.tohoku.ac.jp

専門・教養課程所在地間の最寄交通機関による所要時間 約15分

1. カリキュラム全般について

A. 一般教育（教養）と専門教育との関係：

- 1) 学則上は一般教育（教養）と専門教育とを区別せず、6年一貫教育である。
- 2) 一般教育（教養）の学習は1、2年生のみで行われる。
- 3) 専門教育（準備教育は除く）の学習は1年生から開始する。

B. 教授会は一般教育（教養）にはない。

C. 学生や教員や地域住民などに対し、医学部・医科大学としての一般目標や理念が印刷物や看板・ホームページなどのメディアで示されている。

D. 学生や教員が学習内容を予め知ることができるように、授業科目の学習目標（一般目標や行動目標）、授業内容、担当者などを印刷物（シラバス）ですべて示してあり、その印刷物をシラバスという。

E. 4年生大学既卒者（学士編入生）は卒業学部にかかわらず、すべて1年生に入学する。

F. 1年生の入学時オリエンテーションは1日間行うが合宿ではない。

G. Early Exposure（医学教育の早い時期に医学・医療の場に接し動機づけを試みる教育）を行っている学年は1年生である。

その期間と内容：1年生：15日間：臨床医学修練（1次）（医療入門ワークショップ、事前実技実習、学外施設見学、大学病院見学）

H. PBL/チュートリアル（小グループで行う問題解決型学習）が導入されている。

コアタイムの時間は

1年生は、平均して週8時間×年間1回である。

3年生は、平均して週15時間×年間1回である。

4年生は、平均して週6時間×年間11回である。

自習用に割り当てられている時間は

3年生は、平均して週15時間×年間1回である。

4年生は、平均して週6時間×年間11回である。

チューターは主として基礎医学系と臨床医学系の教員が行う。

チューター養成のためのトレーニングプログラムや講習会などが行われている。

I. 細胞・組織レベル、ないしは臓器系統別の統合カリキュラムを部分的に採用している。

J. 平成17年以降、大幅なカリキュラム改訂は、行われていない。なお、現行カリキュラムの特色は下記のとおりである。

| | |
|-------|--------------------|
| 平成17年 | 地域医療実習（5年次）導入 |
| 平成18年 | 地域医療体験実習（2年次）導入 |
| 平成18年 | 卒業試験を国家試験形式に改編 |
| 平成19年 | 地域医療ワークショップ（2年次）導入 |

K. 今後のカリキュラム改訂は平成20年を目途に予定している。そのねらいは下記のとおりである。

基礎系カリキュラムの再編
1年次導入教育の導入
臨床医学修練（3次）の改編

L. 現在学内で、医学教育について検討されている事項は下記の点である。

地域医療教育プログラム
基礎系カリキュラムの再編
1年次導入教育の導入
臨床医学修練（3次）の改編
4年次臨床系科目の再編

2. 選択制について

専門教科について選択制を採用している

専門教科で選択制としている教科は下記のとおりである。

選択制統合型講義・演習

3. 一般教育（教養）について

A. 医学部医学科以外の学部や学科のある大学に伺います。

一般教育（教養）の授業は他学部（他学科）の学生と一緒にいる。

B. 他大学との単位互換について認めている。

D. 一般教育（教養）部門ではほとんどが選択科目である。

E. 平成19年新入生で、高等学校などで「生物」を履修していない学生の数は調査していないのでわからない。
「生物」を履修しなかった学生に対して補習ないしは選択で授業をしている。

F. 平成19年新入生にはセンター試験が導入されていた。

入学者のうち「生物」を選択していた学生は約35%であった。

4. 基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）配属について

A. 学生が一時期、基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）に配属されるシステムがあり、
全員が3年生の時に平均して1週30時間×16週間配属される。

希望者のみが6年生の時に平均して1週30時間×16週間配属される。

5. 臨床実習（外来実習、BSL、クリニカル・クラークシップを含む）について

A. 臨床実習前に、まとまった形で医療面接・診察技法（例：臨床実習入門など）の学習を行っている。
（1日間）

身体診察の学習に医師や学生以外の標準模擬患者（SP）を導入している。

B. 臨床実習の実施学年とその期間は（早朝や時間外は省略）

5年の時、1週30時間で、40週間である。

6年の時、1週30時間で、16週間である。

C. 臨床実習科目は全科目を必修としている。

D. 大学の附属病院以外の施設（国・公・私立病院や保健所・老健施設などでの実習、国内外を問わない）
で臨床実習を行っている。

そこで行う実習科目は（週数も含め各科の判断）である。

この大学外の実習の場合の交通費は学生が自分で支払う。

- E. クリニカルクラークシップは内科や外科などの主な臨床実習実施科で導入している。
- F. 臨床実習のための手引書は印刷物として配布されていて、それにはスケジュール、到達目標、評価法が記載されている。
- G. 臨床実習の評価として各診療科ごとの評価基準があらかじめ学生に示されている。
臨床実習の評価結果は合否（進級）の判定（総括評価）に用いられる。そして不合格の場合は、不合格科目のみ再度臨床実習を行う。
- H. 臨床実習中の学生の安全管理対策については

- ・ 保険制度に加入している。
- ・ ワクチン接種を行っている。

6. 学生の海外における実習について

- A. 学生の海外における実習は基礎医学実習と臨床実習の両方を行う機会がある。
期間は最長 基礎医学実習は16週
臨床実習は16週である。

7. 評価について

- A. 進級判定が行われるのは1年終了時、2年終了時、3年終了時、4年終了時、5年終了時である。
- B. 成績の記録法は点数・合否・段階などの混合による方法を採用している。
- C. 卒業判定のための試験は行われていて、それは総合的な試験である。
時期は9月から11月まで、期間は10週間（長期休暇期間を除く）である。
- D. 6年生の10月以降には、系統講義が組まれている。
また、大学による国家試験対策のための特別な講義が行われることはない。
- E. 卒前教育に携わっている教員に対し、教育業績の評価が行われ、その評価を行うのは、学生・自己である。
自己評価以外の評価結果は本人にフィードバックされる。
その評価結果は昇進などに関係しない。
- F. 過去2年間に、卒前教育全体に対する第三者評価が行われた。

8. 教員について（医学部・医学科および大学院学生の教育を担当する教員）

- A. 教員数（平成19年12月現在）

| | | 教 養* | 基 礎** | 臨 床*** | 附属研究施設 | その他 | 合 計 |
|--------------|-----|------------------------------|-------|--------|--------|-----|-----|
| 常勤 (有給専任) | 教 授 | 全教員が ローテー ションに より担当 | 34 | 39 | 16 | 8 | 97 |
| | 准教授 | | 20 | 45 | 10 | 75 | |
| | 講 師 | | 5 | 57 | 2 | 64 | |
| | 助 教 | | 52 | 215 | 23 | 290 | |
| | その他 | | | | | 0 | |
| | 合 計 | 0 | 111 | 356 | 51 | 8 | 526 |

| | | | | | | | |
|-------------------|-----|-----|----|-----|-----|---|-----|
| 非常勤 (客員・無給を含む) | 教 授 | | | 90 | | | 90 |
| | 准教授 | | | 83 | | | 83 |
| | 講 師 | | 56 | 198 | | | 254 |
| | 助 教 | | | | | | 0 |
| | その他 | | | | | | 0 |
| | | 合 計 | 0 | 56 | 371 | 0 | 0 |

* 教養の常勤者は医学部所属者のみに限る。総合大学で医学部所属者がいない場合は空欄とする。

** 基礎は社会医学を含む。

*** 臨床は附属病院・分院を含む。

B. 常勤の教員の任期制の制度を取り入れている。

任期制の制度の概要は下記のとおりである。

- ・教授：10年、再任可、再任の場合は7年
- ・准教授（講師）：7年、再任可、再任の場合は5年、2回が限度
- ・助教：6年、再任可、再任の場合は4年、2回が限度
- ・助手：6年、再任可、再任の場合は4年、2回が限度

C. 教員や臨床実習時の指導医の医療事故に対する対応策については、取り決められていない。

9. 学生数（平成19年12月現在）

| 学 年 | 総 数 | | うち学士編入者数 | うち今年度留年者数 (今年度のみ) | うち休学者数 | うち外国人 留学生 | |
|-----|----------------|----------------|----------|----------------------|--------|--------------|---|
| | うち 女子 人数 | うち 女子 人数 | | | | | |
| 1 | 106 | 14 | | 1 | 2 | | |
| 2 | 112 | 10 | | 7 | 2 | 1 | |
| 3 | 110 | 22 | | 9 | 9 | 2 | 1 |
| 4 | 102 | 14 | | 1 | | | |
| 5 | 107 | 12 | | 3 | 2 | | |
| 6 | 91 | 16 | | 3 | 2 | 1 | 1 |
| 合計 | 628 | 88 | 0 | 24 | 17 | 4 | 2 |

10. 平成19年4月（今年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数353名、合格者数107名、倍率3.3倍

入学者数105名、(定員100名、うちAO入学者数10名)

入学者の状況：現役43名、1浪32名、2浪14名、その他16名、

定員外に別試験で入学した外国人学生0名、

センター試験を導入している。

センター試験で理科を2単科目課している。

12. 平成18年4月（昨年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数454名、合格者数106名、倍率4.3倍

入学者数104名、(定員100名、うち推薦入学者数0名)

入学者の状況：現役33名、1浪36名、2浪19名、その他16名、

定員外に別試験で入学した外国人学生0名、

センター試験を導入している

13. 平成18年（昨年）の1年生以外の編入学状況

B. 編入学者地域わくについて

地域わくは無い

今後どのように考えていますか

5名の定員増は検討しているが、地域枠を設ける予定はない。

14. 授業時間配分

(1) 学期区分

| 学 年 | 学期制なし | 学期制あり | | 総時間数 | | |
|-----|-------|-------|------|--------------------------------|----|------------------|
| | | 2学期制 | 3学期制 | 講義 | 実習 | PBL / チュートリアル |
| 1 | | ○ | | 単位制であり講義・ 実習別に定めをして いない。 | | |
| 2 | | ○ | | | | |
| 3 | | ○ | | | | |
| 4 | | ○ | | | | |
| 5 | ○ | | | | | |
| 6 | ○ | | | | | |

(アーリーエクスポージャーは実習時間数に含める。)

(2) 土曜日の授業（講義または実習）は

1年：ある 2年：ある 3年：ない 4年：ある 5年：ない 6年：ない

(3) 時間配分の概略図（授業区分のブロック図）

新カリキュラム（総合）

| 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | | |
|----------|----------|-----|-----|-----|----------|---|---|
| A (D) | A (D) | B | B | D | E (F) | D | G |
| | B | | C | | D | | |
| | | | C | D | | | |

(註) A：教養（一般教育）

B：基礎医学

C：社会医学

D：臨床医学（実習を含む）

E：基礎・社会医学研究室配属

F：海外研修（希望者のみ）

G：卒業試験

15. 医学専門教育（専門課程）の教科別授業時間数

| 授業科目名 | 講義時間数 | 実習時間数 | 合計時間数 |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 肉眼解剖学 | 54 | 117 | 171 |
| 発生学 | 20 | 0 | 20 |
| 組織学 | 58 | 38 | 96 |
| 脳解剖学 | 14 | 15 | 29 |
| 医化学 | 48 | 60 | 108 |
| 放射線基礎医学 | 15 | 0 | 15 |
| 遺伝学 | 19 | 0 | 19 |
| 生理学 | 36 | 0 | 36 |
| 応用生理学 | 21 | 0 | 21 |
| 薬理学Ⅰ | 33 | 0 | 33 |
| 薬理学Ⅱ | 60 | 0 | 60 |
| 生体機能学実習 | 0 | 72 | 72 |
| 免疫学 | 36 | 0 | 36 |
| 微生物学 | 69 | 37 | 106 |
| 病理学Ⅰ | 18 | 18 | 36 |
| 病理学Ⅱ | 48 | 48 | 96 |
| 衛生学 | 30 | 0 | 30 |
| 公衆衛生学 | 47 | 0 | 47 |
| 法医学 | 42 | 0 | 42 |
| 病院管理学 | 24 | 0 | 24 |
| 医の倫理学・社会学 | 20 | 0 | 20 |
| 医学心理学 | 18 | 0 | 18 |
| 基礎医学修練 | 0 | 480 | 480 |
| 特別講義 | 18 | 0 | 18 |
| 臨床医学修練（1次） | 6 | 45 | 51 |
| 臨床医学修練（2次） | 12 | 33 | 45 |
| 内科学Ⅰ（循環） | 21 | 0 | 21 |
| 内科学Ⅱ（呼吸器・老人） | 21 | 0 | 21 |
| 内科学Ⅲ（腎・高血圧・内分泌） | 21 | 0 | 21 |
| 内科学Ⅳ（血液・免疫・感染） | 18 | 0 | 18 |
| 内科学Ⅴ（代謝・心療） | 10 | 0 | 10 |
| 内科学Ⅵ（消化器・肝） | 21 | 0 | 21 |
| 内科学Ⅶ（神経） | 15 | 0 | 15 |
| リハビリテーション医学 | 12 | 0 | 12 |
| 外科学Ⅰ（消化器・一般） | 27 | 0 | 27 |
| 外科学Ⅱ（移植・腫瘍・一般） | 27 | 0 | 27 |
| 外科学Ⅲ（循環器・呼吸器） | 15 | 0 | 15 |
| 外科学Ⅳ（整形・形成） | 35 | 0 | 35 |
| 外科学Ⅴ（神経） | 15 | 0 | 15 |
| 外科学Ⅵ（小児） | 12 | 0 | 12 |
| 産科学婦人科学 | 12 | 0 | 12 |
| 精神医学 | 21 | 0 | 21 |
| 皮膚科学 | 24 | 0 | 24 |
| 泌尿器科学 | 21 | 0 | 21 |
| 小児科学 | 33 | 0 | 33 |
| 眼科学 | 24 | 0 | 24 |
| 耳鼻咽喉科学 | 26 | 0 | 26 |
| 放射線医学 | 21 | 0 | 21 |
| 麻酔科学 | 21 | 0 | 21 |
| 臨床検査診断学 | 18 | 0 | 18 |
| 救急医学 | 6 | 0 | 6 |
| 臨床薬理学 | 21 | 0 | 21 |
| 病理示説 | 42 | 0 | 42 |
| 人類遺伝学 | 17 | 0 | 17 |

| 授業科目名 | 講義時間数 | 実習時間数 | 合計時間数 |
|------------|-------|-------|-------|
| 横断的講義 | 102 | 0 | 102 |
| 臨床医学修練（3次） | 0 | 1230 | 1230 |
| 卒前最終講義 | 17 | 0 | 17 |
| 医学専門英語 1 | 23 | 0 | 23 |
| 医学専門英語 2 | 28 | 0 | 28 |
| 高次医学修練 | 0 | 480 | 480 |
| 合 計 | 1513 | 2673 | 4186 |

各学年における講義時間数、実習時間数について

| | 講義時間数 | 実習時間数 | 合計時間数 |
|------|-------|-------|-------|
| 1 学年 | 6 | 45 | 51 |
| 2 学年 | 372 | 248 | 620 |
| 3 学年 | 375 | 637 | 1012 |
| 4 学年 | 743 | 33 | 776 |
| 5 学年 | 0 | 1230 | 1230 |
| 6 学年 | 17 | 480 | 497 |
| 合 計 | 1513 | 2673 | 4186 |

16. その他の教育内容

下記の教育内容は独立した授業科目*として授業が行われていますか。

独立した科目として授業が行われている科目：

人類遺伝学（臨床遺伝学）（必修）、行動科学（選択）、医学外国語（必修）、医療安全（必修）、医の倫理（必修）、緩和ケア（必修）、高齢医学（必修）、在宅ケア・介護（必修）、プライマリ・ケア（必修）

独立した科目として授業が行われていない科目：

医史学、医用（電子）工学、医療福祉学（医療社会福祉学）、医療経済、医療情報学、家庭医学、臨床医学、人間関係学、医療保険

18. MD-PhDコースを設置している。

（在籍者は、3名。）